

第5回 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 議事概要

【開催日時】	平成22年 3月 3日 (水) 15:00～17:10
【議題】	1. 工事状況について 2. 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視調査結果について(H21年夏季・秋季) 3. 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視計画 存在・供用時(素案)について 4. 今後の予定について
【出席者】	清水委員長、小倉委員、猿田委員、時田委員、古川委員、東京都、千葉県、神奈川県、東京空港整備事務所、東京航空局、東京空港事務所
【開催場所】	羽田空港第一ターミナルビル 6F ギャラクシーホールA
【資料】	資料-1 環境監視結果の概要について 資料-2 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視調査結果 資料-3 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視計画 存在・供用時(素案) 資料-4 今後の予定について

1. 開会挨拶

2. 委員長挨拶

3. 議 事

3-1 工事状況について

[資料説明]: 事務局より、工事の進捗状況について説明。その後、大気環境・水環境の監視結果について報告を行った。

[大気環境に関して]

委員: 工事による影響は特にみられない。

一週間分の測定結果と環境基準との比較は、直接比較という点において難しい面もあるかもしれないが、長期的に観測することにより、意義も出てくると考える。

[水環境に関して]

委員: 潮流の状況については、埋立部の概成以降、埋立部に沿った流れに変化してきている。これは地形的なものから判断できる変化に収まっていると感じた。流況の頻度分布をみると、一部で少し早い流速がみられるが、これは気象条件などによるもの

と考えられる。今後、このようなところに注目した監視を続けてください。

委員：これまで、水質に関しては、ほとんど影響がなかったと考えて問題ないと思う。ただし、もし異常値が出たとしても早期に発見できるので、このような監視体制を継続して行うことが大切である。

委員：干潟の生態系調査の中で、中州の底質については、少し高い値がでていいる。これは空間的に全データをみると、変動の範囲を外れている値はほとんど出ていない。このことから、局所的に有機物がたまって、その腐食による変化と考えられる。

3-2 事務局より、水環境に関して、「東京国際空港再拡張事業に係る環境監視計画存在・供用時（素案）」報告を行った。

委員：暗環境調査の付着生物については、付着生物と底質の状況について同様の調査を実施して頂きたい。

委員：大気環境についてはいかがか。

事務局：本来であれば、今回の委員会でご提案すべきですが、現在最終案の調整を行っています。基本的にはアセスメントのときの調査地点と調査方法を踏襲するというところで作成しています。次回の委員会までには案を確定するような方向で調整を進めさせていただければと考えております。

事務局：今回は、水環境のみの計画を説明させていただきましたが、大気環境も合わせて第6回環境監視委員会でご審議いただきたい。

(了)